

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：32689
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：20H00066
研究課題名（和文）政治的分極化の総合的研究

研究課題名（英文）A study on political polarization

研究代表者

久米 郁男（Kume, Ikuo）

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：30195523

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 28,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、現代民主主義国における政治的分極化を「政党システムの分極化」と捉え、有権者の選好が政治制度に媒介されて、「政党システムの分極化」を規定するという因果のフローを仮説的に設定し、分極化の程度を規定する要因およびそのメカニズムを、多様なアプローチを用いて検討した。その結果、選挙区における野党間競争が強まるほど、候補者間及び有権者の間でも政策選好の多極化が進む一方、統一候補擁立による競争の緩和は候補者の政策ポジションの中道化を促すことが示された。また、有権者レベルにおいては、党派性が人々の会話相手の選択に影響する一方、他者の行動を継続的に観察することが分極化を防ぐことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、アメリカやヨーロッパの民主主義諸国において政治的対立が昂進し、政治的な分極化が進んでいることに注目が集まる。このような事態が、政治の統合機能の不全を招き、民主主義への信認を揺るがす可能性も危惧されるに至っている。本研究では、政治的分極化を「政党システムの分極化」と限定的かつ明示的に捉え、有権者の選好が政治制度に媒介されて、「政党システムの分極化」を規定するという因果のフローを仮説的に設定し、「政党システムの分極化」のメカニズムを解明することをめざした。その結果、分極化を増進させるメカニズムの一端を解明することに成功した。

研究成果の概要（英文）：This study conceptualizes political polarization in contemporary democratic countries as "polarization of the party system." It hypothesizes a causal flow where voter preferences are mediated by political institutions to determine "polarization of the party system." The study examines the factors and mechanisms that determine the degree of polarization using various approaches. As a result, it was shown that the intensification of competition among opposition parties in electoral districts leads to increased polarization of policy preferences among candidates and voters. On the other hand, the mitigation of competition through the unification of candidates promotes the moderation of candidates' policy positions. Furthermore, at the voter level, while partisanship influences the choice of conversation partners, it was found that continuous observation of others' behaviors helps prevent polarization.

研究分野：政治学

キーワード：政治的分極化 政党間競争 選挙制度 実験室実験

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、現代民主主義国における政治的分極化の程度を規定する要因およびそのメカニズムを、多様なアプローチを有機的に統合して総合的に検討する。近年、アメリカやヨーロッパの民主主義諸国において政治的対立が昂進し、政治的な分極化が進んでいることに注目が集まる。このような事態が、政治の統合機能の不全を招き、民主主義への信認を揺るがす可能性も危惧されるに至っている。この政治的分極化への関心は、政治学の世界で継続して持たれ、様々なアプローチと関心から研究が進められ多くの業績を残してきた。しかしながら、それらの研究成果は関心とアプローチの多様性故に、政治的分極化の総合的な理解を未だもたらしてはいない。その原因の一端は、それら研究が解明しようとする政治的分極化の内実そのものが多様であることにある。本研究では、政治的分極化を「政党システムの分極化」と限定的かつ明示的に捉え、有権者の選好が政治制度に媒介されて、「政党システムの分極化」を規定するという因果のフローを仮説的に設定し、「政党システムの分極化」のメカニズムを解明することが、本研究の学術的問いである。

2. 研究の目的

「政党システムの分極化」のメカニズムを解明することを目的とし、以下の学術的独自性と創造性を持つ課題を解決していく。

- 1) 政党システムの分極化の測定
- 2) 政党システムの分極化に、「政治制度」が与える影響の解明
- 3) 政党システムの分極化に「有権者の選好」が与える影響の解明

3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、本研究では以下(1) - (4)を計画、実施した。

(1) ラボ実験

COVID-19 やワクチン接種をめぐる対立のように、双方の求める根本的な利益は一致しているにもかかわらず、分極化が発生してしまうメカニズムを解明し、分極化の発生を抑制することができる条件を探るため、信念の分極化(belief polarization)を実証した Andreoni and Mylovantov (2012)をベースに様々な条件を加えたラボ実験を計 14 回(1 回あたりの被験者数は 25 - 30 人)実施した。

(2) 2021 年衆院選、2022 年参院選候補者調査

政党間競争と政治家の政策選好との関係を明らかにするため、読売新聞社と共同で衆院選、参院選の全立候補者を対象とした調査を実施した。

(3) 2022 年参院選に合わせて実施する地方議会議員調査、有権者調査

選挙区における有権者・地方政治家の政治選好分布と候補者の政策位置との関係を検討するため、有権者・地方政治家調査を上述した参議院候補者調査と同じ質問文を用いて行った。この調査では、今回の参院選から新たに日本維新の会が参入した選挙区と未参入の選挙区との比較を行うことで、選挙区における政党間競争の変化が有権者や地方議員の政策選好にもたらす効果の測定を試みた。対象とした選挙区は、長崎、新潟、香川、佐川、京都、広島、茨城、静岡の計 8 選挙区で、投開票日後に地方議会議員調査(回収率 59.1%)、有権者郵送調査(回収率 37.4%)を、選挙前後の変化を確認するための有権者 WEB 調査(選挙前 4633 人、選挙後 3195 人のパネル調査)を実施した。

(4) オンライン調査実験

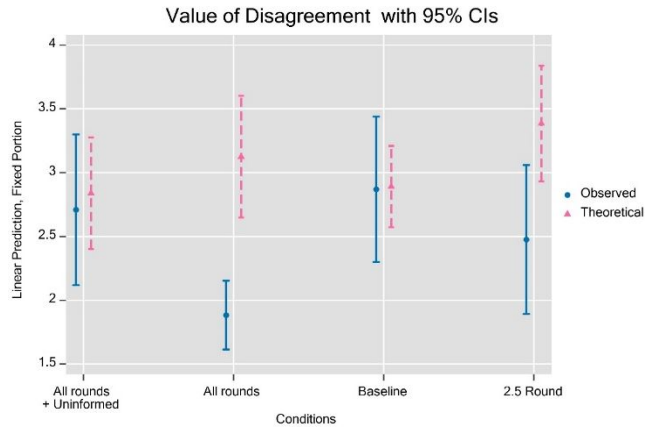
政党数や政策争点の数が有権者の選好分布に与える効果を測定するための選択実験(choice experiment, コンジョイント実験)を日本、アメリカ、イタリアの有権者各 1,000 人を対象としてオンラインで実施した。また、会話相手の選択に党派性が及ぼす効果、そして異なる党派性を持つ他者との肯定的な接触が感情的分極化に与える効果を測定するための調査実験も日本の有権者を対象にオンラインで実施した。

4. 研究成果

(1) 信念の分極化(belief polarization)を抑制する条件

分極化は価値や選好に違いがなく、双方の利害が一致しているときでも発生しうる。この現象は「信念の分極化(belief polarization)」と呼ばれ、プレイヤーの持つ情報が高度に複雑な場合、プレイヤーが合理的であっても発生しうると論じられている(Dixit and Weibull, 2007)。たとえば、各プレイヤーが元々持っている私的情報が異なると、その後同じ情報を得たとしても、各プレイヤーが認識する状況に関する主観的確率(信念)は異なることになり、同じ利益を求めているにもかかわらず、それぞれの信念に基づいて選択される行動も異なるようになる。この状況では、たとえ「正しい情報」を与え続けたとしても、双方の信念はますます分極化していく帰結となる。

そこで本研究では、Andreoni and Mylovannov (2012)のラボ実験をベースに「他者の行動を見せる」という条件が分極化に与える効果について検証した。実験の結果、他者の行動を1度見せるだけでは分極化は発生するが、複数回見せることで被験者がcorrelation neglectを引き起こして分極化が抑制されることが明らかになった。これらの成果は、日本経済学会および米国中西部政治学会(MPSA)にて報告された。

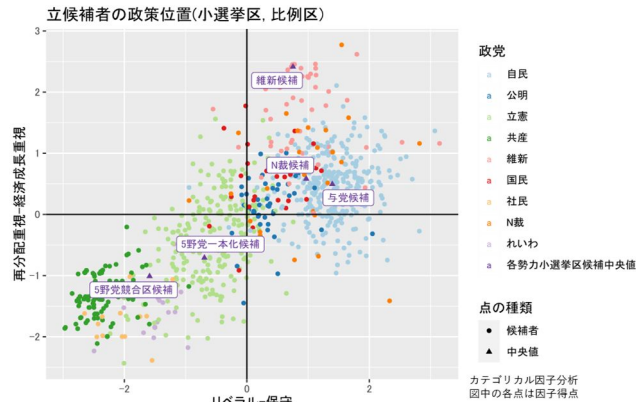


(2) 政党間競争がもたらす政治家の政策選好の変化

2021年衆院選と2022年参院選に合わせて読売新聞社と共同で実施した候補者調査では、政党間競争のあり方が候補者の政策選好を変えうることが明らかとなった。野党共闘により多くの選挙区で候補者が一本化された2021年衆院選では、野党統一候補の政策選好が一本化されなかった選挙区の野党候補者の政策選好と比べて大きく中道寄り位置している。

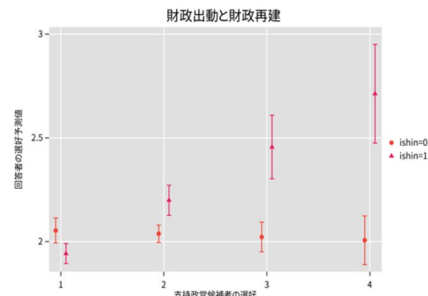
一方、共闘が進まなかった2022年参院選では、憲法改正への賛否や防衛費の規模、米中韓との関係についての選好で構成される「保守-リベラル」軸での政党間の対立が、これまでと比べて強く表れている。選挙制度の違いに留意すべきではあるものの、野党間での競争は候補者に自身の政策選好を差異化させるインセンティブとなることが示唆された。

2021年衆院選候補者調査



(3) 選挙区における政党間競争の変化がもたらす有権者の政策選好の変化

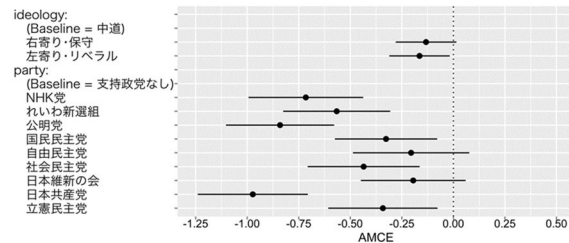
新たな政党や候補者の参入は、既存の政党を支持していた有権者の政策選好や投票先を変化させる(Guntermann & Lachat, 2023)。2022年参院選において、日本維新の会が新たに候補者を立てることが、当該選挙区の有権者の政策選好に与える効果を測定するため、8府県の府県議会議員と選挙人名簿から無作為に抽出された有権者を対象に調査を実施し、(2)で述べた候補者調査と組み合わせて分析をおこなった。分析の結果、維新の会が新たに候補者を参入させると、維新の会が重視している政策に関して、既存政党の支持者の政策選好と当該政党の候補者の政策選好とが一致する傾向にあることが明らかになった。上述したように、野党間での競争は保守イデオロギー軸上での対立の激化をもたらしており、これに連動するように有権者間においても政策選好分布の多極化が起きていることが示された。近年、有権者については保守イデオロギー軸の弱まりが指摘されているが(遠藤・ウィリー, 2019)、新たな政党や候補者の参入と野党間の競争が、有権者に自身や政党を伝統的な保守軸上に認知させるようになったことが示唆された。



(4) 「日常の会話相手」の選択に党派性が与える効果

有権者レベルにおいても分極化が進んでいる米国では、日常会話やパートナーの選択といった非政治的な意思決定においても党派性が影響を与えていると指摘されている (Shafranek, 2021)。有権者の約半数が無党派である日本においても、党派性がこうした意思決定を左右しうるのかを検証するため、上述した 8 府県の有権者を対象にオンラインで選択実験 (choice experiment) を実施した。

この実験では、会話相手の候補となる架空の人物の属性と会話のテーマなどが無作為に表示され、被験者は表示された架空の人物と会話したいかどうかを選択する。実験の結果、全回答者を対象にした分析と無党派層のみに絞った分析のいずれにおいても、自民党と維新の会以外の政党を支持していると表示された人物は、会話相手として選択されづらいことが明らかとなった。研究成果は、日本社会心理学会で報告され、学術誌ノモスに掲載された。



引用文献

- Andreoni, J., and T. Mylovanov, (2012). Diverging Opinions. *American Economic Journal: Microeconomics* 4(1), 209-232.
- Dixit A., and J. Weibull, (2007). Political Polarization. *Proceedings of the National Academy of Science of the United States of America* 104(18), 7351-7356.
- 遠藤晶久・ウィリー・ジョウ . (2019) . 『イデオロギーと日本政治—世代で異なる「保守」と「革新」』 新泉社 .
- Guntermann, E., & Lachat, R. (2023). Policy Preferences Influence Vote Choice When A New Party Emerges: Evidence from the 2017 French Presidential Election. *Political Studies*, 71(3), 795-814.
- Shafranek, Richard M. (2021). Political Considerations in Nonpolitical Decisions: A Conjoint Analysis of Roommate Choice. *Political Behavior* 43(1), 271–300.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 横山智哉・荒井紀一郎	4. 巻 54
2. 論文標題 日常生活での非政治的意思決定に与える政治的要因の効果: 会話相手の選択に関するコンジョイント分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ノモス	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Woo Yujin, Kume Ikuo	4. 巻 online first
2. 論文標題 Taking gains from trade (more) seriously: the effects of consumer perspective on free trade in contemporary Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 1~17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1468109923000270	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inamasu Kazunori, Kohama Shoko, Mifune Nobuhiro, Ohtsubo Yohsuke, Tago Atsushi	4. 巻 24
2. 論文標題 The Association between ideology and resistance to governmental apology depends on political knowledge	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 348~367
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1468109923000130	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohama Shoko, Quek Kai, Tago Atsushi	4. 巻 86
2. 論文標題 Managing the Costs of Backing Down: A "Mirror Experiment" on Reputations and Audience Costs in a Real-World Conflict	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The Journal of Politics	6. 最初と最後の頁 388~393
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1086/726927	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohtsubo Yohsuke, Himichi Toshiyuki, Inamasu Kazunori, Kohama Shoko, Mifune Nobuhiro, Tago Atsushi	4. 巻 on line first
2. 論文標題 Do reconciliation events serve as a conciliatory signal?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 European Journal of Social Psychology	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ejsp.3028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤武	4. 巻 43
2. 論文標題 統合懐疑主義の限界: イタリア世論におけるEUと自由貿易支持の検証	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本EU学会年報	6. 最初と最後の頁 159-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Carpi, T., Hino, A., Iacus, S. M., & Porro, G.	4. 巻 -
2. 論文標題 The Impact of COVID-19 on Subjective Well-Being: Evidence from Twitter Data	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Data Science	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6339/22-JDS1066	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Carpi, T., Hino, A., Iacus, S. M., & Porro, G.	4. 巻 -
2. 論文標題 On a Japanese subjective well-being indicator based on twitter data	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Social Science Japan Journal	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ssjj/jyac002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Berlucchi, A. B., & Hino, A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Still valuable? Reconsidering the role of authoritarian values among Japanese voters.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1468109922000056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hino, A., Ogawa, H., Fahey, R. A., and Liu, L.	4. 巻 61-1
2. 論文標題 Japan: Political development and data for 2021: A Reversal of Electoral Fortunes for the Liberal Democratic Party	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 European Journal of Political Research, Political Data Yearbook	6. 最初と最後の頁 264-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/2047-8852.12384	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 武	4. 巻 76
2. 論文標題 イタリア 右派メローニ政権の「堅実路線」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 128-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fraser, Nicholas A. R. and Go Murakami	4. 巻 43-2
2. 論文標題 The Role of Humanitarianism in Shaping Public Attitudes toward Refugees	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Political Psychology	6. 最初と最後の頁 255-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pops.12751	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yohsuke Ohtsubo, Toshiyuki Himichi, Kazunori Inamasu, Shoko Kohama, Nobuhiro Mifune, and Atsushi Tago	4. 巻 38-2
2. 論文標題 Can Ingroup Opposition to Political Apologies Be Mitigated? Negative Evidence for Dissociation from the Past and Praise for the Present System	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Social Psychology	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14966/jssp.2120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shoko Kohama, Toshiyuki Himichi, Kazunori Inamasu, Nobuhiro Mifune, Yohsuke Ohtsubo, and Atsushi Tago	4. 巻 -
2. 論文標題 Crafting International Apologies that Work: A Conjoint Analysis Approach,	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Conflict Management and Peace Science	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/07388942221094761	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 建林正彦	4. 巻 24
2. 論文標題 日本政治とクライアンテリズム論について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本比較政治学会年報	6. 最初と最後の頁 39-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Kubo, Tomoko Matsumoto and Kentaro Yamamoto	4. 巻 23-3
2. 論文標題 Party Switching and Policy Disagreement: Scaling Analysis of Experts' Judgment	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 254-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1468109922000160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤武	4. 巻 2021-2
2. 論文標題 イタリア第2共和制における主流派政党の衰退	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 85-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.72.2_85	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒井紀一郎	4. 巻 73-2
2. 論文標題 "民意"の測り方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央評論	6. 最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hino, A. and Ogawa, H.	4. 巻 60-1
2. 論文標題 Japan: Political development and data for 2020	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 European Journal of Political Research, Political Data Yearbook	6. 最初と最後の頁 222-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/2047-8852.12333	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jungkunz, S., Fahey, R. A., & Hino, A.	4. 巻 Plos one
2. 論文標題 How populist attitudes scales fail to capture support for populists in power	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Plos one	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0261658	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 曾我謙悟	4. 巻 67
2. 論文標題 大阪都構想と新型コロナ対応が映し出す日本の地方自治	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域人	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohtsubo, Y., Inamasu, K., Kohama, S., Mifune, N., & Tago, A.	4. 巻 27-3
2. 論文標題 Resistance to the six elements of political apologies: Who opposes which elements?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Peace and Conflict: Journal of Peace Psychology	6. 最初と最後の頁 449-458
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/pac0000456	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Royce Carroll and Hiroki Kubo	4. 巻 71
2. 論文標題 Measuring and Explaining the Complexity of Left-Right Perceptions of Political Parties.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Electoral Studies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokoyama Tomoya	4. 巻 18
2. 論文標題 A survey experiment on the effect of the presentation format of policy information used in mini-publics on issue-related knowledge	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Human Environmental Studies	6. 最初と最後の頁 155 ~ 162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4189/shes.18.155	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Kyohei, Arai Kiichiro	4. 巻 -
2. 論文標題 Do boundary consolidations alter the relationship between politicians and voters? The case of municipal mergers in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Local Government Studies	6. 最初と最後の頁 1~27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03003930.2020.1761335	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohtsubo Yohsuke, Inamasu Kazunori, Kohama Shoko, Mifune Nobuhiro, Tago Atsushi	4. 巻 -
2. 論文標題 Resistance to the six elements of political apologies: Who opposes which elements?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Peace and Conflict: Journal of Peace Psychology	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/pac0000456	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Carroll Royce, Kubo Hiroki	4. 巻 71
2. 論文標題 Measuring and explaining the complexity of left-right perceptions of political parties	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Electoral Studies	6. 最初と最後の頁 102310 ~ 102310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.electstud.2021.102310	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上剛	4. 巻 329
2. 論文標題 改革イデオロギーの理解の世代差 JIGS 2013を用いた再検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館法学	6. 最初と最後の頁 113-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Go Murakami	4. 巻 38
2. 論文標題 Who Opposes Ethnic Minority Candidates? Examining the Moderated Effects by Voter Ideology and Ethnic Group Attitudes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ritsumeikan Law Review	6. 最初と最後の頁 17-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Song, J.・日野愛郎	4. 巻 36-1
2. 論文標題 マルチレベル選挙における動員と選挙疲れ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 選挙研究	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fahey Robert A.、Hino Airo	4. 巻 55
2. 論文標題 COVID-19, digital privacy, and the social limits on data-focused public health responses	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Information Management	6. 最初と最後の頁 102181 ~ 102181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijinfomgt.2020.102181	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 HINO AIRO、OGAWA HIROKI	4. 巻 59
2. 論文標題 Japan: Political Development and Data in 2019	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Journal of Political Research Political Data Yearbook	6. 最初と最後の頁 214 ~ 224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/2047-8852.12300	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 18件）

1. 発表者名 Asako, Yasushi, Hino, Airo, Arai, Kiichiro, Morikawa, So
2. 発表標題 Reducing Polarization by Observing Others' Actions: Laboratory Experiments
3. 学会等名 80th Annual Midwest Political Science Association Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浅古泰史, 荒井, 紀一郎, 日野愛郎, 森川想
2. 発表標題 A Little Knowledge Can Lead to Polarization: The Consequence of Misunderstanding Payoff Structure
3. 学会等名 日本経済学会2023年度秋季
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横山智哉・荒井紀一郎
2. 発表標題 会話相手の選択に与える政治的選好の効果: 日常生活での意思決定を対象としたコンジョイント実験による検証
3. 学会等名 日本社会心理学会第64回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takeshi ITO
2. 発表標題 The Paradox of Decline: Center-right Mainstream Parties in Contemporary Europe. From the Italian Perspective
3. 学会等名 The 29th International Conference of Europeanists (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takeshi ITO
2. 発表標題 How Does Europe Go beyond Common Market?: Evidence from a Survey Experiment
3. 学会等名 The 30h International Conference of Europeanists (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤武, 井関竜也, 渥美芹香
2. 発表標題 イタリアにおけるテクノクラート内閣の成立と「民主主義の後退」
3. 学会等名 日本政治学会、2023年度研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsumi, Serika, Tatsuya Iseki, Takeshi ITO
2. 発表標題 Do People Trust Technocrats instead of Political Parties? Synthetic Control Approach to the Effect of Technocrat Government on the Confidence in Political Institutions
3. 学会等名 Japanese Society for Quantitative Political Science (JSQPS) 2023 Summer Meeting Program (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小浜祥子
2. 発表標題 Is Reassurance Truly Assuring? Exploring Alliance-Related Fear through Experiments
3. 学会等名 国際政治経済研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Niikawa, S. and Hino, A.
2. 発表標題 Time-differencing QCA: A Set-theoretical Development
3. 学会等名 Time-in-QCA (TiQ) International Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Camatarri, S, Gallina, M, and Hino, A.
2. 発表標題 Two Sides of the Same Coin: The Electoral Effects of Populist and Anti-Populist Attitudes
3. 学会等名 American Political Science Association Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hino, A, Gallina, M, Camatarri, S, Fahey, R.A, and Serdult, U.
2. 発表標題 The impact of Voting Advice Applications: Evidence from a randomized field experiment in Japan
3. 学会等名 Japanese Society for Quantitative Political Science (JSQPS) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤武
2. 発表標題 統合懐疑主義の限界 イタリアにおける自由貿易とEU統合支持の検証
3. 学会等名 日本EU学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasushi Asako
2. 発表標題 Can Observing Others' Actions Help Prevent Polarization?: Results from Laboratory Experiments
3. 学会等名 Asian Meeting of the Econometric Society in East and South-East Asia (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅古泰史・荒井紀一郎・日野愛郎・森川想
2. 発表標題 How polarization can be reduced: Implications from laboratory experiments
3. 学会等名 日本経済学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山智哉
2. 発表標題 ワクチン接種と党派性: ワクチン接種の意思決定に関するメカニズムの実験的解明
3. 学会等名 日本政治学会研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 Analyzing Ideological Dimensionality in British Party Polarization
3. 学会等名 The Annual Meeting of the Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久保浩樹
2. 発表標題 アメリカの対外援助をめぐる点呼投票分析
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomoya Yokoyama
2. 発表標題 Pretreatment Effects of Political Conversation on the Political Discussion in Mini-Publics
3. 学会等名 International Political Science Association Congres (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takeshi Ito
2. 発表標題 Backsliding or Progressing? The Successful and Unsuccessful Reforms of Electoral Governance in Europe and Asia
3. 学会等名 26th World Congress of Political Science, (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上剛
2. 発表標題 Beyond Racial Prejudice
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上剛、西澤由隆
2. 発表標題 社会規範とヘイトスピーチ規制に対する態度
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上剛
2. 発表標題 Effects of Candidates' Ethnicity on Vote Choice under FPTP and CLPR
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Niikawa, S. and Hino, A.
2. 発表標題 Time-differencing Qualitative Comparative Analysis (QCA): A set theoretical development
3. 学会等名 International QCA Paper Development Workshop (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 Does Intra-District Polarization Cause Party Polarization in Congress?
3. 学会等名 The Annual Meeting of the Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 Go Murakami and Yoshitaka Nishizawa
2 . 発表標題 Following the Norms or Following the Crowds?
3 . 学会等名 Annual Virtual Meeting of American Political Science Association (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Fahey, R. A., Hino, A., Camatarri, S., & Jungkunz, S.
2 . 発表標題 Belief in Conspiracy Theories and Socio-Political Identity in Japan
3 . 学会等名 American Political Science Association Annual Conference (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Takeshi Ito
2 . 発表標題 The Search for a New Pension Mix: Reforms in Southern Europe and East Asia
3 . 学会等名 the virtual Annual Conference of the American Political Science Association (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Takeshi Ito
2 . 発表標題 The Paradox for Legimatization: Electoral Governance Reforms in Europe and Asia
3 . 学会等名 the virtual Annual Conference of the American Political Science Association (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1. 発表者名 Uekami, Takayoshi, Takeshi Ito, Ryo Fujishima, Yusuke Miyauchi, and Junpei Yamaguchi
2. 発表標題 Decomposing and Examining the Multiple Aspects of Party Institutionalization: Internal Party Organization and External Electoral Volatility
3. 学会等名 日本政治学会2020年研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 The Sources of Party Loyalty: Explaining Intraparty Perceptions of Party Organization and Leadership
3. 学会等名 The Annual Meeting of the American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroki Kubo
2. 発表標題 The Sources of Party Loyalty: Explaining Intraparty Perceptions of Party Organization and Leadership
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kiichiro Arai
2. 発表標題 最適配置は可能か?: パーソナリティとパフォーマンス
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 久米 郁男	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 200
3. 書名 なぜ自由貿易は支持されるのか	

1. 著者名 浅古泰史、図斎大、森谷文利	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 402
3. 書名 活かすゲーム理論	

1. 著者名 Foret, F., and Hino, A. (Eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 206
3. 書名 Value Politics in Japan and Europe	

1. 著者名 Fahey RA, Hino A, Pekkanen RJ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 35
3. 書名 Populism in Japan, The Oxford Handbook of Japanese Politics	

1. 著者名 日野愛郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 23
3. 書名 「アジア諸国におけるナショナリズム - 自国を誇らしいと思う感情はどこから生まれるか」池田謙一 (編) 『日本とアジアの民主主義を測る - アジアンパロメータ調査と日本の21世紀』	

1. 著者名 Yasushi Asako	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 126
3. 書名 Analyzing Electoral Promises with Game Theory	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒井 紀一郎 (Arai Kiichiro) (80548157)	中央大学・総合政策学部・教授 (32641)	
研究分担者	浅古 泰史 (Asako Yasushi) (70634757)	早稲田大学・政治経済学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	横山 智哉 (Yokoyama Tomoya) (20806153)	学習院大学・法学部・教授 (32606)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	日野 愛郎 (Hino Airo) (30457816)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	伊藤 武 (Ito Takeshi) (70302784)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	曽我 謙悟 (Soga Kengo) (60261947)	京都大学・法学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	久保 浩樹 (Kubo Hiroki) (40789559)	明治学院大学・法学部・准教授 (32683)	
研究分担者	小浜 祥子 (Kohama Shoko) (90595670)	北海道大学・公共政策学連携研究部・准教授 (10101)	
研究分担者	村上 剛 (Murakami Go) (80737437)	立命館大学・法学部・教授 (34315)	
研究分担者	森川 想 (Morikawa So) (10736226)	東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・講師 (12601)	
研究分担者	建林 正彦 (Tatebayashi Masahiko) (30288790)	京都大学・法学研究科・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------